

テーマ：つくってみよう

富士見台保育園（品川区）0～5歳児

テーマ設定の理由

子どもたちが日々の生活や遊びの中で製作を通して表現することを楽しむ姿が多く見られることから、“つくる”ことへの興味をさらに深めていくことを目的とした。

用意した環境

●準備したもの

- ・ホワイトボード、ホワイトボードマーカー、模造紙、マーカー、作り方の本や絵本、製作ワゴン(画用紙、折り紙、輪ゴム、モール、割箸、テープ等)
- ・話し合いをした内容を模造紙に書き、廊下に掲示する

探究活動を実践する

●活動内容

- ・おまつりごっこでやりたいお店屋さんの意見を出し合う
- ・グループで、お店屋さんに必要なものを作る

●子どもたちの様子

- ・友達と何が 필요한のか相談しながら、製作棚から材料を選ぶ姿が見られた。
- ・的あてに使う輪ゴムでっぼうの作り方を図鑑で調べたり、思うように作れない時には別の方法はないか考えたりする姿が見られた。
- ・自分の作っているものがひと段落すると、他のグループの様子を確認しに行き、クラスで一丸となって目的に向かっていく様子が見られた。
- ・お面につける輪ゴムを2つ、試行錯誤しながら組み合わせている。「このやり方は誰にも教えてもらっていないけど、自分で考えてやっているんだ」と保育者に話す姿が見られた。

活動名：なつまつりごっこ（準備）

活動のねらい：友達と協力したり話し合ったりしながら試行錯誤し、一緒に取り組む楽しさを味わう



保育者の振り返りと気づき

●保育者の振り返りと気づき

- ・各グループに分かれて、なつまつりごっこの準備を行った。事前に必要なもの、構想を紙に書きだしていたのでスムーズに取り組むことができた。考えていた方法では思うようにいかなかった時に、本からヒントを探したり、保育者に製作ワゴンにない素材を準備できないか相談したりと、様々な方法で解決し、目的の物を作り上げようとする姿に成長を感じた。

活動名：なつまつりごっこ（当日）

ねらい：友達と協力したり話し合ったりしながら
試行錯誤し、一緒に取り組む楽しさを味わう

用意した環境

●準備したもの

- お面、綿あめ、紙芝居、お神輿、射的、折り紙、魚すくい、看板（子どもたちが作ったもの）
- 机、ゴザ、夏祭りの雰囲気が出るように1階ホールで行う

探究活動を実践する

●活動内容

- お店屋さんの店員になりきり、ごっこ遊びをする
- 実際に他クラスを呼んで、異年齢で関わって遊ぶ

●子どもたちの様子

- 前日に各クラスを回り、なつまつりごっこに必要な手作りのお金と招待券を渡すことで、当日を楽しみにする姿が見られた。
- 当日は、朝から張り切ってお客さんを迎える準備等をしていた。実際に品物をお客さんにあげることを想定していた店は、配置を考えながら、品出しや陳列を行っていた。
- 他クラスの友達が来ると、「いらっしゃいませ」と大きな声で迎え、作ったものを披露したり説明したりしていた。
- 「これは〇〇円です」と実際のお店の店員さんと同じようなやり取りをすることを楽しむ姿が見られた。また、お客さんの年齢に合わせて優しくお店の説明をして商品を渡したり、手を添えてあげたりしながらやり取りを楽しんでいた。長く準備した結果が出せて満足そうであった。



保育者の振り返りと気づき

●保育者の振り返りと気づき

- 実際になつまつりごっこが始まり、お客さんが遊びに来ると、子どもなりに各年齢に合わせて話し方や関わり方を考えながら接客をする姿に、年長児としての成長を感じた。
- お客さんから「楽しい」「ありがとう」と言葉をかけられると、嬉しそうな表情を見せており、友達と協力しながら作ってきたものを認めてもらう機会を設けることができて良かった。
- なつまつりごっこの活動を通して、様々な素材に触れて作ることの楽しさや、友達と思いを通わせて目的の物を作る難しさ、作ったもので誰かを喜ばせる嬉しさを経験することができた。

活動名：思い思いに貼ったり、描いたり、くっつけたりして製作する

活動のねらい：想像を膨らませながら「つくる」ことの楽しさを味わう

用意した環境

●準備したもの

- ・画用紙（台紙）、丸・四角・三角・ハート・星などに切った画用紙、スズランテープ、花紙、モール、紙テープ、両面テープ、ボンド、のり、セロハンテープ、リボン、マスキングテープ、ボール紙、毛糸など
- ・テーブル 2 台、椅子 4 脚（各テーブル 2 人ずつ）

探究活動を実践する

●活動内容

- ・台紙の画用紙を 1 枚選んだのち、保育者とやりとりをしながら自由に素材を使い、製作をする（貼ったり、通したり、結んだりする）

●子どもたちの様子

- ・今回で 4 回目の取り組みとなり、新たな素材（マスキングテープ、ボール紙、毛糸）を加えたことで、作る幅が広がった。ひたすら新しい素材を使い続けることに夢中になる子もいれば、今までの使い方がわかる素材で作る子もいて「つくる」ことに対する姿勢も様々であった。
- ・全体的に活動に対しては興味を示し、じっくりと時間をとったことで十分に活動を楽しむことができた。また、ボール紙や毛糸、スズランテープなど立体的な素材を用いたことで、イメージを膨らませながら製作に取り組む姿が見られた。「〇〇みたい！」「これは短いやつで、これは長いやつにする」と明確にイメージや希望を伝え、リボンをちょうちょに見立てたり、友達と作品を見せ合ったりしながら行っていた。ひもの長さやテープの色を自分で選ぶようになり、素材を十分に使って製作を楽しんでいる姿が見られた。



保育者の振り返りと気づき

●保育者の振り返りと気づき

- ・活動に連続性をもたせ、さらに新しい素材を加えたことをきっかけに、イメージを広げやすくなったようで、今までよりも集中して取り組む姿が見られるようになった。
- ・クラス全体で集中が途切れることなく活動に取り組み続ける姿が見られた。新しいものを使った製作であること以外にも、普段の製作活動とは違いできる範囲ではあるが子どもたちが好きなものを好きなだけ使うことができる自由な環境であることが、子どもたちが夢中になれた要因ではないかと感じた。

活動名：泡遊び、シャボン玉遊び(素材研究・道具作り)

活動のねらい：泡遊びを経験して、しゃぼん玉遊びに必要な道具を作ったり、作った道具で遊んだりする

用意した環境

●準備したもの

- ・しゃぼん液
- ・シャボン玉玩具作りに必要な素材(毛糸、割箸、両面テープ、セロハンテープ、紐、様々な太さのストロー、網、うちわの骨組、ハンガー)
- ・シャボン玉関連の絵本(本棚に置いておく)

探究活動を実践する

●活動内容

【8月21日】クラスでシャボン玉遊びに必要な材料を話し合う

【8月22日】シャボン玉で遊ぶための道具作りで必要な材料を話し合う

【8月25～28日】シャボン玉遊びに必要な玩具作りをする

【8月29日】作った玩具で遊んでみる

●子どもたちの様子(8月29日の様子)

・自分で作った道具を使ってシャボン玉遊びをすることを楽しんでいった。中々シャボン玉にならずに試行錯誤する姿も見られたが、息の吹き方を調節したり、道具の種類を変えてみたりしながら熱中して遊ぶ姿が見られた。

・「小さいのがいっぱいできたよ」「歩いたら割れちゃう…」「しっかり、シャボン玉液をつけるといいよ」など、自分達で発見しながら、遊んでいた。



保育者の振り返りと気づき

●保育者の振り返りと気づき

・泡遊びをきっかけとして、シャボン玉遊びを楽しむことができた。手でシャボン玉を作る活動から、既製品の道具を使った遊び、自分たちが手作りした道具を使った遊びと、段階を経て遊ぶ経験を重ねることができた。

・広々としたグラウンドで、1時間程遊びの時間を設けて活動に取り組むことで、のびのびと遊びを楽しむ姿が見られた。

・思ったようにシャボン玉ができない子どもも、友達が遊ぶ様子を見たり、繰り返し何度も遊ぶことで方法を身につけたりして、それぞれが有意義な活動時間を過ごすことができたと感じている。